



MV-22オスプレイの地上展示が 鹿屋航空基地で実施されました

米軍岩国基地（山口県）での空中給油機KC-130の訓練が、海上自衛隊鹿屋航空基地やグアムで展開されることに伴い、海上自衛隊鹿屋航空基地で訓練に参加予定のMV-22オスプレイの地上展示が7月31日に実施されました。

問 市政策推進課 Tel.0994-31-1125

地域住民や関係者へ展示

7月31日の正午頃、海上自衛隊鹿屋航空基地に初めてMV-22オスプレイが降り立ちました。

この地上展示は、訓練を開始する前に実施することが約束されていたもので、今回実現したものです。

基地内で行われた地上展示には、市関係者、市議会議員、基地周辺町内会長を含む鹿屋市基地関係連絡協議会委員、報道関係者の37人が参加しました。

乗組員からの説明

MV-22オスプレイの乗組員である米海兵隊員から、「固定翼モードやヘリモードに転換できることで効率性の高い機体であること」や「20人以上の隊員を運ぶことができること」など、



▲固定翼モード



▲ヘリモード



▲ハッチを見学する参加者

機体に関する説明がありました。その後、参加者から「降灰時の安全性」や「騒音」などについての質問があり、米海兵隊員が回答しました。

機体の中に入ることはできませんでしたが、ハッチが開いた状態から内部を確認することができました。

安全・安心の確保に向けて

海上自衛隊鹿屋航空基地での米軍の訓練開始時期は未定ですが、今年2月から鹿屋市上空での空中給油機KC-130の慣熟飛行が実施されている状況です。今後、安全性の確保や騒音対策など、防衛省を通じて米軍に要請していきます。